

10/21 認知症疾患医療センター 研修会を開催しました

令和3年10月21日、令和3年度第一回認知症疾患医療センター研修会を開催致しました。今回も新型コロナウイルス対策のためWEBでの開催となりました。他センターを含めた認知症の方の支援者や近隣市町村の施設関係者にご参加いただきました。

本研修では、筑波大学附属病院の新井哲明先生を講師として招き、「認知症のBPSDの対応」という演題でご講演いただきました。症状の原因として認知機能低下によるもの以外に、環境変化と身体的な要因、薬剤性によるものがあると説明がありました。また、治療として環境調整等の非薬物的対応を第一選択とし、改善しない場合は薬物療法を進めること、また、BPSDの予防としては支持的受容的な対応で感情を安定させる事が大切と話がありました。

毎年開催している本研修ですが、地域の支援者のニーズに合った、より充実した研修内容となるよう、引き続き努力して参ります。

活動 報告

BPSDとは「行動・心理症状」のことをいいます

認知症の症状は主に中核症状とBPSDに大別され、BPSDは「行動・心理症状」または「周辺症状」とも言われます。徘徊・多動・不潔行為・暴言暴力・抑うつ・妄想・幻覚などが症状として現れ、認知機能の障害によりその人の性格や環境、周囲の人との関わりなど相互作用の結果として様々な精神症状や行動の障害がおこります。

スタッフからひとこと

認知症の早期受診について

認知症は脳の病気や障害など様々な原因により認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出る状態をいいます。「今までと違う」という周りの気づきが認知症の早期発見に繋がり、早期受診したことで治療ができる病気が見つかることもあります。また認知症の進行を緩やかにする治療や生活を始めることに繋がります。認知症の受診というと抵抗がある方が多いのは事実です。しかし健康診断を受け病気を早期に発見したり、異常が無いことを確認し安心感を得られたりすることは認知症でも他の病気でも同じだと思います。

当センターでは相談時に今までどんな病気や怪我があったか、食欲はあるか、睡眠はとれているか、どんな薬を飲んでいるのかなどの情報収集・アセスメントを行っています。その相談内容を踏まえて患者様や御家族様が少しでも安心して受診できるように心がけていきたいと考えております。何か気になることがあればお声掛けください。

スタッフプロフィール

○名前：
大金 めぐみ
○資格：
看護師、介護
支援専門員
○仕事内容：
医療や生活の
相談支援・他
機関との連絡
調整



認知症疾患医療センターへの
受診予約・ご相談は・・・

TEL 0295-58-8020

営業時間：

月曜～金曜・第四土曜日

9:00～17:00

(祝日・祭日、年末年始は除く)